

広島湾再生行動計画（第一期） 最終評価

最終評価

目標 1：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。

- 汚水処理対策、底質改善、森林の保全・整備等を推進した結果、北部海域における赤潮発生回数の減少、透明度の改善などの一定の効果が見られた。
- 一方、依然として一部の海域では夏季に貧酸素水塊が見られることから、引き続き必要なモニタリングを継続するとともに、湾奥部を中心に、底層 D0 改善のための取り組みが必要である。
- 近年、海面漁獲量は一部の魚種を除き減少傾向にあり、養殖かきの採苗不調等の新たな問題も発生している。このため、新たに瀬戸内海環境保全基本計画に盛り込まれた水質管理の視点や、水産資源の持続的な利用の確保等の視点を踏まえつつ、多面的価値・機能が最大限に発揮されるような、豊かな海の実現に向けた施策を推進していくことが必要である。
- 干潟・藻場等の保全・再生を推進した結果、新たな生物生息・生産の場の創出などの一定の効果が見られた。
- 一方、現存する干潟・藻場等の浅場については、現時点で良好な生物の生息・生育環境が維持されているかどうか等についての十分な調査が行われていないことから、モニタリング及び保全方法について検討していく必要がある。

【行動指標】：目標達成率 7／7（平成 27 年度末で目標達成に近い 3 項目を含む）、【状態指標】：7 項目中 5 項目で計画時の状態が上向き傾向にある

目標 2：人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。

- 新たな親水空間の整備や利用の活性化を推進した結果、代表的な親水施設等の利用者は大幅に増加した。また、環境教育活動やボランティア活動への参加者も増加しており、行動計画策定時に比べると、市民連携による活動が盛んになってきている。
- 一方、広島湾再生行動計画の認知度や、広島湾の保全・再生の取り組みに対する地域住民の関心は必ずしも高いとは言えないことから、さらなる広報等の充実が必要である。
- ただし、環境教育活動等は、行政機関が主体となって実施したものが多いため、官民連携による、地域住民の自主的な活動を促進していくための仕組みづくりや支援の検討が必要である。

【行動指標】：目標達成率 5／6、【状態指標】：5 項目中 2 項目で計画時の状態が上向き傾向にある

目標 3：宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。

- 住民参加による自然景観、歴史・文化的資源の保全に対する取り組みを推進した結果、清掃活動への参加人数が増加し、一部の海岸では、ごみが無い美しい状態が維持されている等の効果が見られた。
- 一方、一部の海岸では、依然としてごみの漂流・漂着や不法投棄などの不適正処理による海の景観・環境の悪化が見られることから、海ごみについては、さらなる対策の強化が必要である。
- 自然景観や歴史・文化的資源については、引き続き保全するとともに、その魅力を活かした地域の活性化が必要である。

【行動指標】：目標達成率 2／2、【状態指標】：2 項目中 1 項目で計画時の状態が上向き傾向にある

1. 広島湾再生行動計画 最終評価（案）

※H28.11.30 時点の公表データによる評価結果を記載

目標 1－1：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。（水環境の再生）

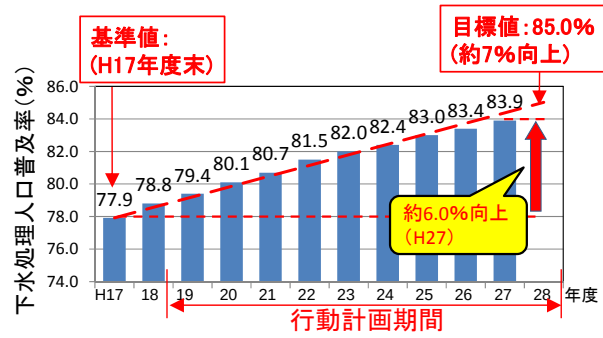
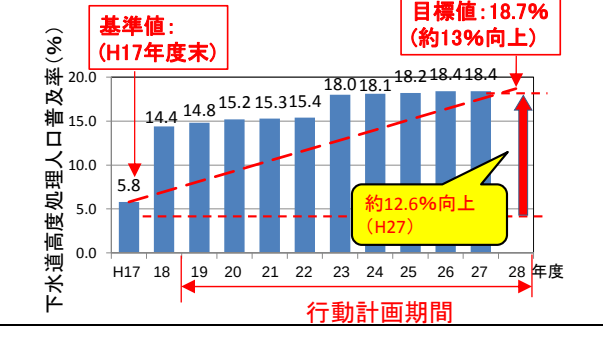
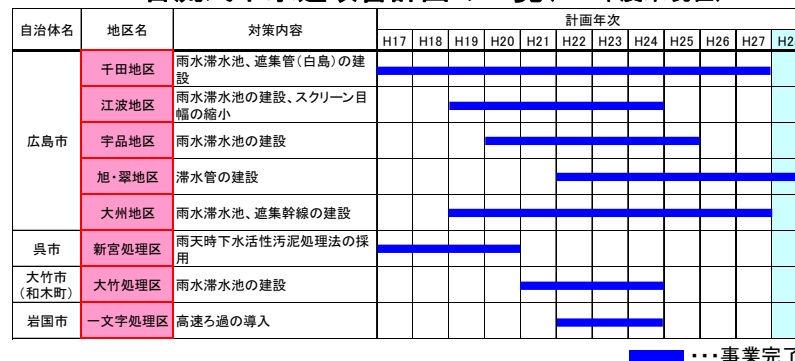
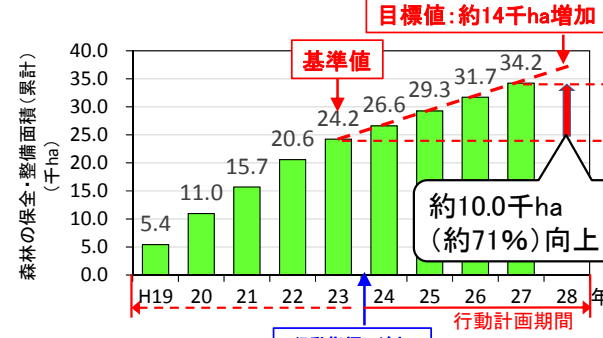
<行動指標>・・・これまでの取り組みの進捗状況を評価する指標

行動指標の評価の凡例：

・・・ 目標（目安）を達成している

・・・H27 年度末時点で目標達成に近い

・・・目標（目安）を達成していない。

評価指標 （行動指標）	目標値（目安）	計画策定時 （平成 19 年 3 月末時点）	最終評価のデータ （平成 28 年度末時点）	最終評価の結果	
汚水処理人口普及率	約 7%向上	77.9%（H17 年度末）	83.9%（H27 年度） 	・約 7%向上（目安）に対し、 <u>約 6%向上</u> （H27 年度） H28 年度末に目安が達成される見込み	 H27 年度末時点
下水道高度処理人口普及率	約 13%向上	5.8%（H17 年度末）	18.4%（H27 年度） 	・約 13%向上（目安）に対し <u>約 12.6% 向上</u> （H27 年度） H28 年度末に目安が達成される見込み	 H27 年度末時点
合流式下水道の改善	8 地区改善	2 地区で整備実施中	8 地区で整備完了（H28 年度） 	・8 地区改善（目安）に対し、 <u>8 地区改善</u> （H28 年度末）	 H28 年度末時点
森林の保全・整備状況	H24～H28 の間に、約 14 千 ha 保全・整備	24.2 千 ha（H23 年度末） ※H24 年度より新たな行動指標に追加	約 34.2 千 ha（H27 年度）  H26→H27 広島森林管理署 29.55ha 増加 山口森林管理事務所 10.06 増加 広島県 1241.88ha 増加 山口県 800.1ha 増加 広島市 436.28ha 増加	・H24～H28 年度の間に約 14 千 ha 保全・整備（目安）に対し、 <u>約 10.0 千 ha 保全・整備</u> （H27 年度）	 H27 年度末時点
底質の改善	海田湾での底質改善パイロット事業の実施	—	H22 年度に、海田湾での底質改善パイロット事業完了（H28 年度）	・ <u>海田湾での底質改善パイロット事業の実施（目安）を実施済</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点

<状態指標>・・・広島湾の保全・再生状況を評価する指標

状態指標の評価の凡例：



・・・計画時の状態が上向き傾向にある



・・・計画時の状態が概ね維持されている

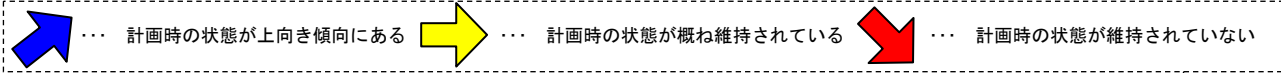


・・・計画時の状態が維持されていない

評価指標 (状態指標)	目標値	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果
赤潮の発生状況	—	7 件 (H18 年度)	2 件 (H27 年度) ※赤潮による漁業被害無し 注) 赤潮発生延べ件数：赤潮が複数の月にまたがって発生している場合は、各月ごとに別々に計上している。 (例：赤潮が 10/1～11/15 まで発生→赤潮発生延べ件数：2 件) 出典：広島県の赤潮(広島県) 赤潮発生延べ件数及び漁業被害件数(北部海域)	・計画策定時より<u>やや減少傾向</u>で、<u>漁業被害は発生していない</u>(H27 年度) <赤潮がやや減少した要因> ・汚水処理人口普及率の向上、合流式下水道の改善等の推進により、海域に流入する負荷量が減少したため、赤潮の原因となる植物プランクトンの増加が抑制されたと考えられるが、気象条件にも左右される。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前時に比べ状態が改善されると予想される。 H27 年度末時点
底層 DO	夏季の底層 DO の最低値が 2mg/L を下回らないこと。 ※H28. 3. 30 環境省告示により、底層 DO が生活環境項目環境基準に新たに追加された。 生物 1 類型 4mg/L 以上 生物 2 類型 3mg/L 以上 生物 3 類型 2mg/L 以上	目標達成地点：13/25 地点 (達成率約 52%) (H20 年度) 平成20年	目標達成地点：17/21 地点 (達成率約 81%) (H27 年度) 平成27年 出典：環境保全調査(第六管区海上保安本部) 浅海定線調査(広島県) 瀬戸内海総合水質調査(中国地方整備局)	・<u>目標値の達成率は 52%から 81%に改善傾向</u>(H27 年度) <底層 DO が目標を達成しない要因> ・陸域からの流入負荷は削減されてきたものの、海田湾など一部の海底の底質改善がまだ進んでいない。 ・雨が少ない年は、広島湾北部海域で海水の入れ替わりが少ない(＝海面から海底へ酸素が供給されない)など、貧酸素水塊の規模は、気象条件にも左右される。 ↓ ・H28 年度末には、一部の地点で目標を達成しない地点が残ると予想される。 H27 年度末時点
透明度	目標①： 夏季透明度の最低値が 1m を下回らないこと。	目標達成地点：8/8 地点 (100%) (H18 年度) 夏季透明度の最低値 (H18 年度)	目標達成地点：10/10 地点 (100%) (H27 年度) 夏季透明度の最低値 (H27 年度) 夏季透明度の評価地点	・<u>計画策定時より透明度が向上し、すべての地点で目標達成</u>(H27 年度) <透明度が目標を達成する要因> ・汚水処理人口普及率の向上、合流式下水道の改善等の推進により、海域に流入する負荷量が減少したため、富栄養化が抑制され、透明度が向上したと考えられる。 ↓ ・H28 年度末には、全ての地点で目標を達成すると予想される。 H27 年度末時点
	目標②： 年間平均透明度 4m 以上を維持すること。	目標達成地点：3/3 地点 (100%) (H18 年度) 年間平均透明度 (H18 年度)	目標達成地点：3/3 地点 (100%) (H27 年度) 年間平均透明度 (H27 年度) 年間平均透明度の評価地点	・<u>計画策定以降横這いだが、すべての地点で目標達成</u>(H27 年度) <透明度が目標を達成する要因> ・汚水処理人口普及率の向上、合流式下水道の改善等の推進により、海域に流入する負荷量が減少したため、富栄養化が抑制され、透明度が向上したと考えられる。 ↓ ・H28 年度末には、全ての地点で目標を達成すると予想される。 H27 年度末時点

(つづき)

状態指標の評価の凡例：



評価指標 (状態指標)	目標値	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果	
形態別の栄養塩類	— ※広島湾内の物質循環を把握するために必要な無機態、有機態の栄養塩類の状況を監視 <u>(水質に大きな変動がないかどうか)</u>	表層 DIN : 0.045～0.169 mg/L 表層 DIP : 0.006～0.017 mg/L 底層 DIN : 0.072～0.112 mg/L 底層 DIP : 0.010～0.020 mg/L (H18 年度)	表層 DIN : 0.071～0.415mg/L (H27 年度) 表層 DIP : 0.004～0.016mg/L (") 底層 DIN : 0.050～0.093mg/L (") 底層 DIP : 0.007～0.015mg/L (") 表層DIN(溶存態無機窒素) 表層DIP(溶存態無機リン) 下層DIN(溶存態無機窒素) 下層DIP(溶存態無機リン) 栄養塩類(DIN、DIP)の経年変化(全地点・年間平均値)	・計画策定時より、 <u>ほぼ横這いで推移</u> (H27 年度) <栄養塩類が横這いとなる要因> ・合流式下水道の改善等の推進により、海域の水質を大きく変化させるような、陸域からの大量の負荷の流入がなかったためと考えられる。 ↓ ・H28 年度末まで、栄養塩類はほぼ横這いで推移すると予想される。	→ H27 年度末時点
かき収穫量	— 広島湾の水質に関わりがあると考えられるかき養殖の状況を監視 <u>(かき収穫量に大きな変動はないかどうか)</u>	19,241 トン (H18 年度)	19,188 トン (H27 年度) (単位:t) 広島湾内のかき収穫量(むき身)の推移 出典: 広島かき生産出荷指針(広島県) 注) H27 年度の値は、農林水産省 平成 27 年度漁業・養殖業生産統計(概数値)からむき身換算重量を推定(H28.12.12 時点)	・約 19,000～20,000 トンに維持 (H27 年度) ・「広島かき生産出荷指針」により、約 19,000～20,000 トン前後の生産量を維持。 ・「広島かき生産出荷指針」によると、今後、かき採苗不良の影響により、かき収穫量が減少する可能性がある。	→ H27 年度末時点

目標 1－2：森・川・海の健やかな繋がりを活かし、豊かな広島湾を保全・再生する。(生物生息・生産の場の保全・再生)

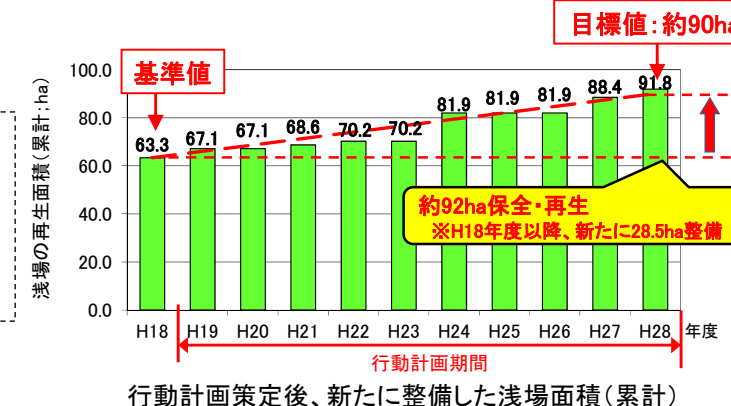
<行動指標>・・・これまでの取り組みの進捗状況を評価する指標

行動指標の評価の凡例：

・・・ 目標（目安）を達成している

・・・H27 年度末時点で目標達成に近い

・・・目標（目安）を達成していない。

評価指標 (行動指標)	目標値（目安）	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果	
干潟・藻場等 の浅場の保全 ・再生面積	約 90ha 保全・再生	63.3ha（H18 年度）	91.8ha（H28 年度） 行動計画期間における主な干潟・藻場等の整備面積 ・岩国港室の木地区干潟 9.5ha ・山口県内海東部地区藻場造成 7.2ha ・江田島市津久茂地先藻場造成 3.8ha 	・約 90ha 保全・再生（目安）に対し、 <u>約 92ha 保全・再生</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点
生物の生息に 配慮した環境 配慮型構造物 の延長	1,200m	—	約 1,340m 整備済（H28 年度） 	・約 1,200m（目安）に対し、 <u>約 1,340m 整備</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点

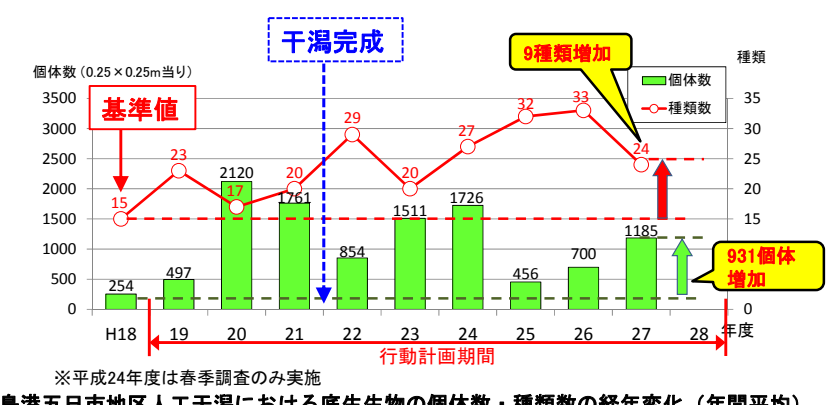
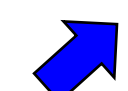
状態指標の評価の凡例：

・・・ 計画時の状態が向上傾向にある

・・・ 計画時の状態が概ね維持されている

・・・ 計画時の状態が維持されていない

<状態指標>・・・広島湾の保全・再生状況を評価する指標

評価指標 (状態指標)	目標値	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果	
浅場等に生息 する生物の種 類数・個体数	—	種類数：15 種類、 個体数：254 個体 （H18 年度：五日市地区人工干潟）	種類数：24 種類、 個体数：1,185 個体（H27 年度：五日市地区人工干潟）（H27 年度） 	<種類数> ・計画策定時より、 <u>9 種類増加</u> （H27 年度） <個体数> ・計画策定時より、 <u>931 個体増加</u> （H27 年度） ・人工干潟完成後は、底生生物の生息に適した環境が増加したことで、常時 20～30 種程度の生物が生息するようになり、変動はあるものの、安定して 1000 前後の個体数が出現するようになった。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前に比べ状態が改善されると予想される。	 H27 年度末時点

目標2：人と海との繋がりを取り戻し、親しみやすい広島湾を再生する。

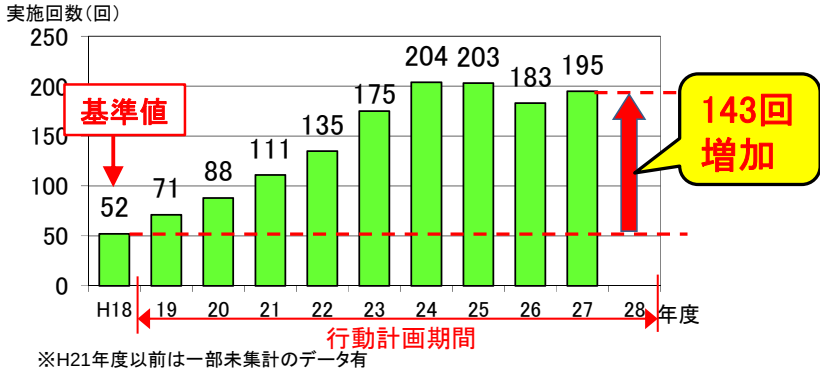
行動指標の評価の凡例：

… 目標（目安）を達成している

… H27 年度末時点で目標達成に近い

… 目標（目安）を達成していない。

<行動指標>・・・これまでの取り組みの進捗状況を評価する指標

評価指標 (行動指標)	目標値（目安）	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果	
野鳥園・緑地の整備箇所数	3 箇所	—	1 箇所整備完了、2 箇所計画中（H28 年度） 大竹港東栄地区緑地（H22 年度整備完了）	・ 3 箇所整備（目安）に対し、 <u>1 箇所整備</u> （H28 年度） 【目安の達成が遅れている要因】 ・ 五日市地区における野鳥園整備及び宇品地区緑地が計画中のため	 H28 年度末時点
海洋性レクリエーション拠点の整備	1 箇所	—	1 箇所整備完了（H28 年度） ボートパーク広島（H19 年度：1 期供用開始）	・ 1 箇所整備（目安）に対し、 <u>1 箇所整備</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点
新たに水辺に触れあうことが出来る海岸延長	1, 200m	—	1, 440m 整備完了（H28 年度） ・ ベイサイドビーチ坂（2 期） 735m（H22 整備完了：広島県） ・ 広島港宇品地区 170m（H23 整備完了：広島県） ・ 広島港宇品地区 225m（H25 整備完了：広島県） ・ 久賀港久賀地区 310m（H24 整備完了：山口県）	・ 1, 200m 整備（目安）に対し、 <u>1, 440m 整備</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点
地域住民との協働による護岸整備	広島港海岸での護岸整備の実施	—	地域住民との協働による護岸整備を実施（広島港海岸中央西地区）（H28 年度）	・ <u>地域住民との協働による広島港海岸での護岸整備を実施</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点
眺望点の整備、修復箇所数	2 箇所	—	2 箇所整備完了、さらに眺望点 1 箇所を新たに整備（H28 年度） ・ ボートパーク広島の整備 ・ 宮島山展望休憩所の整備 ・ 宮島山火事跡の修復	・ 2 箇所整備（目安）に対し、 <u>3 箇所整備</u> （H28 年度）	 H28 年度末時点
環境教育・普及啓発活動	現状以上	52 回（H18 年度）	195 回（H27 年度）  環境教育・普及啓発活動の実施回数の推移	・ 52 回以上（目安）に対し、 <u>143 回増加</u> （H27 年度）	 H27 年度末時点

<状態指標>・・・広島湾の保全・再生状況を評価する指標

状態指標の評価の凡例：



・・・計画時の状態が向上傾向にある



・・・計画時の状態が概ね維持されている



・・・計画時の状態が維持されていない

評価指標 (状態指標)	目標値	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果
代表的な親水 施設の利用状 況	—	オープンカフェ：約 83 千人（H18 年度） クルーズ：約 68 千人（H18 年度） 海水浴：約 130 千人（H18 年度）	オープンカフェ：約 167 千人、 クルーズ：約 164 千人、 海水浴：約 173 千人（H27 年度） オープンカフェ クルーズ 海水浴 代表的な親水施設の利用者数の推移 出典：オープンカフェ・クルーズ・・・広島市調べ、海水浴・・・ひろしま港湾管理センター、呉市、江田島市、岩国市、周防大島町調べ	・計画策定時より、 オープンカフェ：約 84 千人増加（H27 年度） クルーズ：約 96 千人増加（H27 年度） 海水浴：約 43 千人増加（H27 年度） ・オープンカフェの整備、クルーズ航路の整備等により、親水施設の利用者が増加した。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前に比べ状態が改善されると予想される。 H27 年度末時点
広島湾の保全 ・再生に関する シンポジウム、 フォーラム等 への参加人数	—	643 人（H18 年度）	451 人（H27 年度） シンポジウム・フォーラムへの参加人数の推移 出典：広島湾再生推進会議構成機関による開催実績、 アドバイザーボード委員（広島大、広島工業大）による開催実績	・計画策定時より、<u>192 人減少</u> （H27 年度） ・行動計画策定当初は、大規模なシンポジウムを複数開催したため、参加人数が増加したが、最近は、大きなシンポジウム・フォーラムを開催していないため、参加人数は減少した。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前に比べ参加人数は減少すると予想される。 H27 年度末時点
森林ボランテ ィア等の参加 状況	—	約 3.8 千人（H18 年度）	約 17.4 千人（H27 年度） 森林ボランティア活動への参加人数の推移 出典：広島森林管理署、山口森林管理事務所、 広島県、山口県、広島市調べ	・計画策定時より、<u>13.6 千人増加</u> （H27 年度） ・主に「ひろしまの森づくり事業（広島県）」による森林ボランティア活動への参加者が増加した。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前に比べ参加人数は増加すると予想される。 H27 年度末時点
海洋レジャー 客の延べ人数	—	約 984 千人（H18 年度）	約 1,018 千人（H27 年度） 広島湾内の海洋レジャー客数（海水浴、釣り、潮干狩り）の推移 出典：広島県観光客数の動向（広島県） 山口県観光客動態調査（山口県）	・計画策定後、<u>900～1,000 千人前後で推移</u>（H27 年度） ・H23 年度は東日本大震災の影響で、H26 年度は、夏季の天候不良の影響で、海水浴客等がやや減少したが、全体的にはほぼ横這いで推移している。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前に比べ参加人数はほぼ横這いと予想される。 （ただし、海洋レジャー客数は天候にも影響され増減する場合がある。） H27 年度末時点
広島湾及びそ の流域の環境 情報に関する ホームページ へのアクセス 数	—	約 205 千アクセス（H18 年度）	約 119 千アクセス（H27 年度） 広島湾及びその流域の環境情報に関するホームページのアクセス数の推移 出典：広島湾再生プロジェクトHP 瀬戸内海環境情報センター（中国地方整備局） 中国地方整備局太田川河川事務所HP 第六管区海上保安本部HP	・計画策定時より、<u>86 千アクセス減少</u> （H27 年度） H27 年度末時点

目標3：宮島などの魅力ある自然景観、歴史・文化を活かし、美しい広島湾を保全する。

＜行動指標＞・・・これまでの取り組みの進捗状況を評価する指標

行動指標の評価の凡例：



・・・ 目標（目安）を達成している



・・・H27 年度末時点で目標達成に近い



・・・目標（目安）を達成していない。

評価指標 (行動指標)	目標値（目安）	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果																							
住民参加による、自然景観・歴史・文化的資源の保全に関する取り組み	現状以上	36 回（H18 年度）	182 回（H27 年度） <table><caption>住民参加による、自然景観、歴史・文化的資源の保全に関する取り組みの実施回数の推移</caption><tr><th>年度</th><th>実施回数(回)</th></tr><tr><td>H18</td><td>36</td></tr><tr><td>19</td><td>26</td></tr><tr><td>20</td><td>25</td></tr><tr><td>21</td><td>49</td></tr><tr><td>22</td><td>59</td></tr><tr><td>23</td><td>59</td></tr><tr><td>24</td><td>56</td></tr><tr><td>25</td><td>162</td></tr><tr><td>26</td><td>165</td></tr><tr><td>27</td><td>182</td></tr></table>	年度	実施回数(回)	H18	36	19	26	20	25	21	49	22	59	23	59	24	56	25	162	26	165	27	182	・ 36 回以上（目安）に対し、 <u>146 回増加</u> （H27 年度）	 H24 年度末時点
年度	実施回数(回)																										
H18	36																										
19	26																										
20	25																										
21	49																										
22	59																										
23	59																										
24	56																										
25	162																										
26	165																										
27	182																										
市民連携による清掃活動等の実施状況	現状以上	46 千人（H18 年度）	62 千人（H27 年度） <table><caption>市民連携による清掃美化活動への参加人数の推移</caption><tr><th>年度</th><th>参加人数(合計:千人)</th></tr><tr><td>H19</td><td>46.0</td></tr><tr><td>20</td><td>46.5</td></tr><tr><td>21</td><td>48.8</td></tr><tr><td>22</td><td>58.6</td></tr><tr><td>23</td><td>68.9</td></tr><tr><td>24</td><td>61.7</td></tr><tr><td>25</td><td>62.2</td></tr><tr><td>26</td><td>64.0</td></tr><tr><td>27</td><td>62.3</td></tr></table>	年度	参加人数(合計:千人)	H19	46.0	20	46.5	21	48.8	22	58.6	23	68.9	24	61.7	25	62.2	26	64.0	27	62.3	・ 46 千人以上（目安）に対し、 <u>16 千人増加</u> （H27 年度）	 H27 年度末時点		
年度	参加人数(合計:千人)																										
H19	46.0																										
20	46.5																										
21	48.8																										
22	58.6																										
23	68.9																										
24	61.7																										
25	62.2																										
26	64.0																										
27	62.3																										

＜状態指標＞・・・広島湾の保全・再生状況を評価する指標

状態指標の評価の凡例：



・・・ 計画時の状態が向上傾向にある



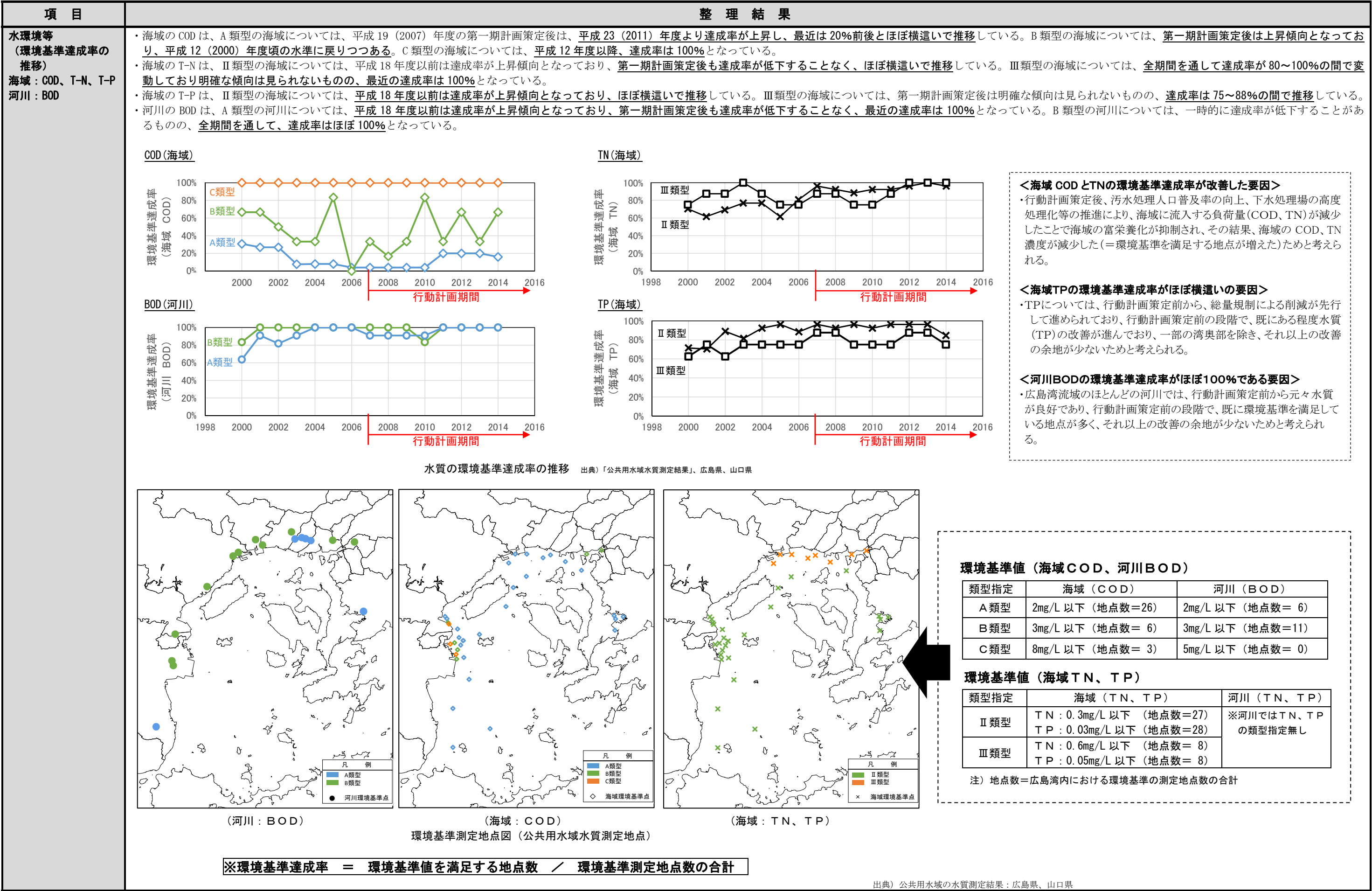
・・・ 計画時の状態が概ね維持されている



・・・ 計画時の状態が維持されていない

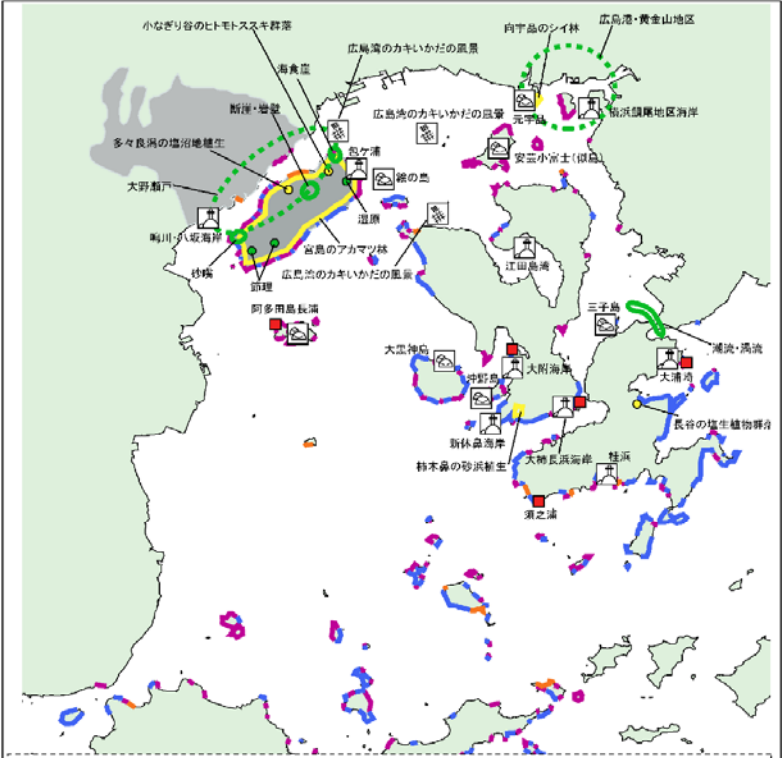
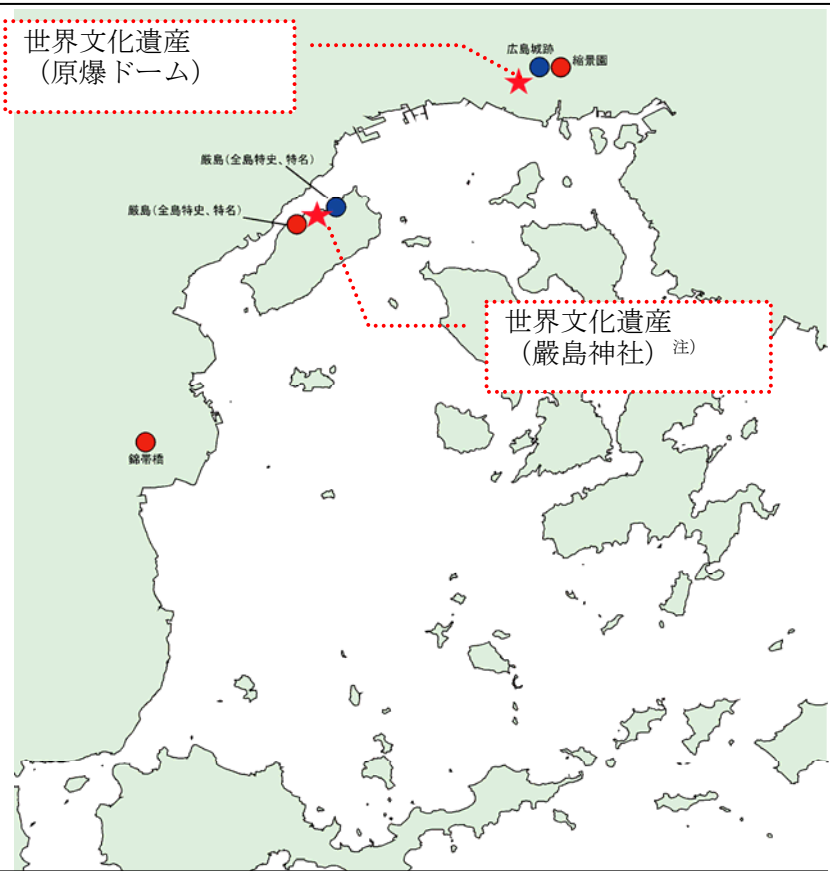
評価指標 (状態指標)	目標値	計画策定時 (平成 19 年 3 月末時点)	最終評価のデータ (平成 28 年度末時点)	最終評価の結果																							
自然景観、歴史・文化的資源の保全状況	— 代表的な自然景観、歴史・文化的資源について、定期的な写真撮影により景観の変化を監視 <u>(漂着ごみの状況等)</u>	—	・ 市民ボランティア等の清掃活動により、観光地や海岸が美しく維持されている。 ・ ごみの漂流・漂着や不適正処理による海の景観・環境の悪化等の問題が見られる。 (H28 年度) H22 年 9 月 H25 年 10 月 H28 年 7 月 漂着ごみの状況（宮島の腰細浦海岸）	・ <u>清掃活動により美しく維持されている海岸がある一方、清掃活動が行き届かない場所では漂着ごみが多く見られる。</u> (H28 年度) ＜漂着ごみが減少しない要因＞ ・河川ごみや漁業由来のごみの削減が進んでいない。また、清掃活動が困難な無人島などでごみの回収が進んでいないためと考えられる。 ↓ ・H28 年度末には、行動計画策定前に比べ状態は改善されないと予想される。	➡ H27 年度末時点																						
観光地（自然景観、歴史・文化的資源）への年間入込客数	—	約 5,351 千人（H18 年度）	約 6,433 千人（H27 年度） ■ その他 ■ 錦帯橋（岩国市） ■ 県市歴史海事科学館（大和ミュージアム）（呉市） ■ 平和記念資料館（広島市） ■ 厳島神社（廿日市市） 代表的な観光地（自然景観、歴史・文化的資源）への年間入込客数の推移 出典：広島県観光客数の動向（広島県） 山口県観光客動態調査（山口県） 基準値 約1,082千人増加 <table><thead><tr><th>年度</th><th>入込客数 (千人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H18</td><td>5,351</td></tr><tr><td>19</td><td>5,415</td></tr><tr><td>20</td><td>5,509</td></tr><tr><td>21</td><td>5,548</td></tr><tr><td>22</td><td>5,391</td></tr><tr><td>23</td><td>5,076</td></tr><tr><td>24</td><td>5,623</td></tr><tr><td>25</td><td>6,362</td></tr><tr><td>26</td><td>6,020</td></tr><tr><td>27</td><td>6,433</td></tr></tbody></table>	年度	入込客数 (千人)	H18	5,351	19	5,415	20	5,509	21	5,548	22	5,391	23	5,076	24	5,623	25	6,362	26	6,020	27	6,433	・ 計画策定時より、約 <u>1,082 千人増加</u>（H27 年度）	➡ H27 年度末時点
年度	入込客数 (千人)																										
H18	5,351																										
19	5,415																										
20	5,509																										
21	5,548																										
22	5,391																										
23	5,076																										
24	5,623																										
25	6,362																										
26	6,020																										
27	6,433																										

2. 広島湾を取り巻く状況の変化



項 目	整 理 結 果
水環境等 (水質濃度等の推移)	(表層水温) ・第一期計画策定前の平成 18 (2006) 年度以前は、北部・南部海域ともにやや上昇傾向にあったのに対し、平成 19 (2007) 年度の第一期計画策定後は、やや低下傾向となっている。 (表層 COD) ・平成 18 年度以前は、北部海域はほぼ横這い、南部海域はやや増加傾向となっており、南部海域よりも北部海域の方がやや濃度が高かったが、第一期計画策定後は、北部・南部海域ともにほぼ横這いで推移しており、平成 18 年度以前とは逆に、北部海域の方が濃度の低い年度も見られる。 (表層 T-N) ・全期間を通して、南部海域よりも北部海域の濃度が高くなっている。平成 18 年度以前は、北部海域ではほぼ横這い、南部海域ではやや減少傾向にあったのに対し、第一期計画策定後は、北部・南部海域ともに大幅な濃度の増加は見られず、ほぼ横這いとなっている。 (表層 T-P) ・全期間を通して、南部海域よりも北部海域の濃度が高くなっている。平成 18 年度以前は、北部・南部海域ともにやや減少傾向にあったのに対し、第一期計画策定後は、北部海域で濃度がやや増加傾向、南部海域ではほぼ横這いとなっている。 (底層 DO) ・全体的に、湾奥部に近い地点ほど底層 DO 濃度が低下する傾向にあり、湾奥部の No. 18、19、20 と呉湾内の No. 21、江田島湾内の No. 34、岩国港沖合の No. 8 では、年変動はあるものの 2mg/L を下回る年度が見られる。一方、比較的沖合の地点 No. 3、4、13、15、17 と潮流が比較的速い大野瀬戸の No. 33 では、ほぼ毎年 2mg/L を上回っている。 ・年変動が大きく、明確な経年変化傾向は見られないもの、湾奥部では、全期間を通して、濃度が横這い、またはわずかに減少傾向の地点が多くなっている。 (1) 表層水温 (2) 表層 COD (3) 表層 T-N (4) 表層 T-P (1) 調査地点 No.13、15、17(広島県) (2) 調査地点 No.18、19、20(広島県) (3) 調査地点 No.21、33、34(広島県) (4) 調査地点 No.3、4、8(山口県) 調査地点 (底層 DO) <COD、TN、TP 濃度がほぼ横這いとなる要因> ・広島湾北部海域の湾奥部では、污水处理人口普及率の向上、合流式下水道の改善等の推進により、海域に流入する負荷量が減少したことものの、海底の底質の改善は進んでいないため、海域における内部生産（海底泥からの栄養塩の溶出等に伴う、植物プランクトンの増殖）が多く、有機物や海水中の栄養塩類が減少しにくいと考えられる。 <湾奥部で底層 DO 濃度が低い要因> ・元々海水交換が小さい海域であり、また、海底の底質の改善が進んでいないため、海底付近での有機物の分解等に伴う酸素の消費量が多いと考えられる。 水質濃度等(北部海域と南部海域の年平均値)の推移 注) 北部海域: 北部海域内の全ての公共用水域水質測定地点の平均値。南部海域も同様。 底層 DO (年間最低値) の推移

出典) 公共用水域の水質測定結果：広島県、山口県
浅海定線調査結果：広島県、平生岩国定線調査：山口県 (底層 DO)

項 目	整 理 結 果																
自然景観、歴史・文化的資源	・ 広島湾内には島々が美しい多島美を形成しているほか、瀬戸における潮流・渦流等、瀬戸内海特有の自然景観が豊富である。特に宮島（厳島）は白砂青松の海岸線、弥山原始林等の豊かな自然と海に浮かぶ厳島神社の大鳥居・社殿等が調和し、古くから日本三景の一つとして、国内はもとより海外にもその名が知られている。 ・ 平成 24(2012) 年 7 月 3 日には、環境省の絶滅危惧 IA 類と広島県の絶滅危惧 I 類に分類され、絶滅が危険視されているミヤジマトンボの生息地である宮島南西部の沿岸域が、広島県で初めてラムサール条約に登録された。 ・ このほか、世界遺産である厳島神社、広島平和記念碑（原爆ドーム）、国名勝の平和記念公園、厳島、錦帯橋をはじめ、呉市海事歴史科学館、旧海軍兵学校等の水辺の歴史・文化的資源も豊富である。 <table><tr><th colspan="2">凡 例</th></tr><tr><td>自然海岸(浜)</td><td>海岸・岬</td></tr><tr><td>自然海岸(浜以外)</td><td>島</td></tr><tr><td>消滅した自然海岸</td><td>カキいかだ</td></tr><tr><td>海浜植物等群落</td><td>展望地、自然景観資源</td></tr></table> ※1. 自然海岸の状況：第4回自然環境保全基礎調査：自然環境情報図：環境庁，1995 海浜植物等群落：第5回自然環境保全基礎調査：自然環境情報図：環境庁，1994 2. 海岸・岬、島、カキいかだ：広島県・景観マップ，広島県，平成 2 年 3 月 県内に見られる美しい景観、県民に親しまれている景観の分布状況を表現したもので、次の基準に基づいて選定されたもの ・市町村アンケートの資料から、特に優れていると判断された景観資源。 ・自然公園内にある景観資源。または国の文化財館堂、名勝、天然記念物、史跡、県天然記念物、県自然環境保全地域、緑地環境保全地域、自然海岸保全地区、風致地区の指定を受けている景観資源。 ・その他、県民に広く親しまれている景観資源や、著名な景観資源、地域の風土や歴史を特徴づけている景観資源。 展望地、自然景観資源：第3回自然環境保全基礎調査：自然環境情報図：環境庁，1994及び瀬戸内海景観の事例収集結果報告書 広島湾内の代表的な自然景観  広島湾内の代表的な自然景観、歴史・文化的資源 （歴史的文化財、名所、名勝、伝統的な町並み） <table><tr><th colspan="2">凡 例</th></tr><tr><td>史跡</td><td rowspan="3">注）社殿を中心とする厳島神社と、それと一体となって遺産の価値を形成している前面の海と背景の弥山を含む森林の区域（約 431.2ha）が世界文化遺産として登録されている。</td></tr><tr><td>名勝</td></tr><tr><td>世界文化遺産</td></tr></table> 広島湾内の史跡、名勝 （文化財保護法による指定と世界文化遺産）	凡 例		自然海岸(浜)	海岸・岬	自然海岸(浜以外)	島	消滅した自然海岸	カキいかだ	海浜植物等群落	展望地、自然景観資源	凡 例		史跡	注）社殿を中心とする厳島神社と、それと一体となって遺産の価値を形成している前面の海と背景の弥山を含む森林の区域（約 431.2ha）が世界文化遺産として登録されている。	名勝	世界文化遺産
凡 例																	
自然海岸(浜)	海岸・岬																
自然海岸(浜以外)	島																
消滅した自然海岸	カキいかだ																
海浜植物等群落	展望地、自然景観資源																
凡 例																	
史跡	注）社殿を中心とする厳島神社と、それと一体となって遺産の価値を形成している前面の海と背景の弥山を含む森林の区域（約 431.2ha）が世界文化遺産として登録されている。																
名勝																	
世界文化遺産																	

項 目	整 理 結 果	
NPO 等による広島湾の環境保全・再生のための活動の実施状況	・ 広島湾及び流域において、NPO 等が実施している広島湾の保全・再生に関する主な活動例は右図に示すとおりである。 NPO 等による広島湾の保全・再生の活動が各地で実施されていることから、これらの活動との連携による取り組みを充実させていくことが必要である。	
	 ①森林体験学習や森林整備ボランティア (NPO法人もりメイト倶楽部Hiroshima) ②京橋川をフィールドとした川との触れ合い活動、環境学習等 (京橋川かわいあいあしがるクラブ) ③雁木の保全活動、漁協等と連携したシジミの放流活動等 (NPO法人雁木組他) ④干潟の生き物観察 (広島干潟生物研究会) ④太田川せせらぎ夢学習塾 (エコロジー研究会ひろしま) ⑤釣り大会、環境学習や清掃活動 (広島県釣りインストラクター連絡機構) ⑥地域住民による元宇品の自然観察ガイド (7-スミジ7ム元宇品構想推進委員会) ⑦太田川放水路、元宇品、似島等での生き物調査 (広島環境サポーターネットワーク) ⑧八幡川河口人工干潟野鳥観察会 (日本野鳥の会広島支部等) ⑨似島におけるアマモの分布調査等 (NPO法人さとみ振興会) ⑩牡蠣や干潟の生き物等をテーマとした環境学習会 (みやじま未来ミーティング、宮島水族館等) ⑪宮島の漂着ごみ調査や環境学習等 (NPO法人自然環境ネットワークSAREN) ⑫砲台山の清掃活動 (NPO法人沖美町地域再生会議) ⑬カボトガニ等の調査研究、自然観察会等 (大柿自然環境体験学習交流館) ⑭アオリイカ産卵床設置、海底清掃、ニホンアワサンゴ保護活動、エコツアー等 (NPO法人自然と釣りのネットワーク) ⑮ニホンアワサンゴの採集と飼育展示、海水浴場清掃等 (NPO法人周防大島海業研究会、なぎさ水族館) ⑯クルージング「スナメリ探検隊」 (周防大島観光協会；前島航路) ⑰錦川流域の自然と文化の保全・再生活動 (錦川流域ネット交流会) ⑱錦川流域の河口から源流までの清掃活動 (「錦川流域一斉清掃」いわくに実行委員会、「錦の清い川」を守る会) ⑲岩国地域の自然学習・保全活動 (NPO法人錦川環境教育学会、オオサンショウウオの会) 広島湾及び流域における NPO 等による主な活動の実施状況の例 活動実施状況：平成 28 年 12 月現在	